

## 5つの課題テーマ・タイトル チーム発表概要

### **チーム1 健康的で活力のある超高齢化社会経営： 「『安心・連帯・愛』の超高齢化社会」**

世界で最も早く進む超高齢化は、バブル崩壊以降、長い景気停滞に悩む我が国の将来に陰鬱な印象を与えている。しかし、「超高齢化社会」の本質的な問題が何であるのか、我々が設定すべき課題がどこにあるのか、は十分に議論されていない。我々は、超高齢「化」社会の「化」の部分に注目し、戦中・戦後以来の社会の変遷を俯瞰した動態的な考察を試み、超高齢化社会の課題設定を行った。対処療法的な課題の解を求めるのではなく、問題の本質についての議論を徹底的に行った。

そして、社会を構成する個々人の充実感・達成感を分析し定義つけることで、目指すべき社会像を“「安心・連帯・愛」の超高齢化社会”と規定し、そこに向かう過程を日本の課題と設定した。

高度成長を経て我が国は良い国・長寿国になった。しかし経済的には豊かであるが「不安と孤独」に悩む社会である。そこで我々は、新たな人間関係を構築する「場」として「新コミュニティの創生」と、「心」のあり方として「新“お互い様精神”の醸成」の二つをソリューションスペースとする「安心・連帯・愛」の超高齢化社会実現をここに提言する。

### **チーム2 資源・エネルギー活用の規律による環境保全： 「生命力増殖炉『日本』」**

地球環境保全、特にCO<sub>2</sub>削減について、その必要性については概ねコンセンサスがあるものの、国家レベルでは先進国と途上国とで負担を押し付けあうなど、足並みがそろっていない。また個人レベルでも自律的な動きにつながっていない。

当チームでは、世界レベルで足並みがそろわない場合でも、日本人が世界に先駆けて地球環境保全をやりたい、と自発的に思う社会システムの構築を目指し、そこへ至るソリューションスペースを提案する。

その際、必ずしも「GDP成長」という物質的でスタティックな指標のみに拘らず、ダイナミックな正の価値観を生み出す判断軸を示す。その判断軸をもとに、シチュエーションに応じた新たなソリューションスペースを提示する。

最後に、こうした取り組みにより、日本人の生命力が増殖し、それが他の分野へも正の波及効果を生み出すことに言及する。

### **チーム3 経済・金融分野の貢献と影響力の制御： 希望を取り戻す安心社会の構築のために**

経済・金融は市民生活、産業、政治、科学・技術、宗教・哲学、環境など様々な分野のインフラであり、縁の下の力持ち的に機能している。ところが昨今、経済・金融がどちらかというとなガティブな形でフロントに出てきてしまうことが多くなってきている。

私たちは様々な形で表面に見えてくる経済・金融課題と他の分野の課題との関係性を重視し、かつ、それぞれの課題の循環構造に注目し、改めて課題の構造化とソリューションスペースの定義に立ち戻って検討を進めた。

「いかにお金を回すか」ということに直接的に解を求めることも大切であるが、それが十分に出来ていない課題の本質、背景にある構造を見極めることはもっと重要である。私たちは「市場以外の力」、「循環による力」の二つを新たな軸・視点とし新たなソリューションスペースを定義した。

その軸・視点に沿って、以下の3つの領域で、特に現在重要と思われる課題を例示とし、解の方向性を検討した。

① 市場論理に加え新たな規範で価値創造を牽引

例示：「使命感醸成による新たな価値創造」

② 社会システムでの新たな循環で付加価値創造

例示：「観光をシステム論で見ることによる新たな付加価値創造」

③ 市場に乗らない新たな循環構造で便益向上

例示：「非貨幣的な労働奉仕の循環システム」

ただし、これらはあくまでも今回提示する視点を具体的に説明するための例示的な検討である。そういう意味で、今回の説明は枠組み・視点の提示が中心であり、その他に検討すべき領域は今後の継続検討としたい。

### **チーム4 多様な宗教、文化、政治を前提とした共通行動規範確立：**

#### **共生のための社会システムの可能性 ～Kaleidoscopic な I D E A による動的均衡～**

現代社会において共生の重要性がますます高まっているが、相互の強いアイデンティティやナショナリズムの台頭に起因する争いが絶えない現実がある。またこの問題を国家という枠組みの中だけで解決を図ることが難しくなっている。我々は、共生のために、①異質性の内在、②ルーズなアイデンティティ、③kaleidoscopic をキーワードとし、新しい枠組み「I D E A」を考えたい。「I D E A」においては異質性がそのまま受容され、また帝国化を抑止するような状態が保たれている。さらに、人間の行き来がこれまで以上に活発化するような atmosphere を醸成し、その中で現在の難民問題にも一定のソリューションを提示したい。

## **チーム5 先端科学技術の効用と新世界観の形成： 「科学と社会が支え合う」世界**

今日では、科学の高度化・複雑化が進んでいることに加え、社会の中で科学の担う役割の変化、研究費の高騰等が生じており、科学と一般社会との距離感が広がっている。社会の中では科学に対する漠然とした不安感が高まっているが、一方科学の側からは、人々の科学リテラシーを高めるための試みや、新しい科学のアプローチ等が試行されている。

チーム5では、こうした現状を克服するべく、「科学と社会が支え合う」世界観を提示し、地球の持続的成長を確かなものへするためのソリューションスペースを提示する。